



国内奨学生

国内奨学生

国内奨学金は、大学婦人協会設立の翌年に協会の事業として発足し、1949年に4名の学部生に奨学金が授与されている。国内奨学金の資金は会員の寄付、その他の特別寄付によっている。受賞者は(1)研究学徒(2)一般奨学生・ホームズ奨学生(3)社会福祉奨学生(4)安井医学奨学生がある。奈良支部では初期から多くの人を受賞しており、研究学徒(研)では24名、大学院生(院)では16名、学部学生奨学生(学)では21名、ホームズ奨学生(ホ)では6名、社会福祉奨学生(社)では5名、医学(医)は1名であり、最近創設された守田科学奨学生(守)にも2名が受賞者している(合計75名)。多くの奨学生は受賞後大学などで研究・教育活動を継続した大学女性協会の活動を支えてきている。この奨学生選択の基準の正統性を証明していると思われる。以下会報に掲載された奨学生の状況と初期の会報に見られる若き日の奨学生の写真をリストアップした。



吉田春美氏



中島美智子氏



猪俣雅子氏



橋本慶子氏



藤田玲子氏



疋田洋子氏



関川千尋氏



中川早苗氏



平井タカネ氏



久留島涼子氏



関 智美氏



阿部百合子氏



佐田優子氏



村松加奈子氏



肥田詠美子氏

奈良支部国内奨学生リスト

年度	氏名	受賞時勤務先(出身校)	受賞研究題目	職歴
1	1950 長谷川千鶴(学)	(奈良女 家政食物)		奈良女 家政 食教授 (故人)
2	1954 小河ソノ(研)	大阪学芸大講師 (奈良女高師)		
3	1954 谷川美知(研)	熊本大 教育学部 (奈良女高師)		
4	1954 加藤邦子(学)	(奈良女)		
5	1956 前川道子(学)	(奈良女)		
6	1957 水梨サワ子(研)	京都府立医大 (奈良女高師)		奈良女 家政 教授 (故人)
7	1957 及川郁子(研)	奈良女 研究科(奈良女)		
8	1958 奥村恵子(学)	(奈良女)		
9	1959 木村栄子(学)	(奈良女 理物理)		
10	1960 丹羽紀子(学)	(奈良女 家政住居)		
11	1960 清水増子(研)	奈良女 助教授 (奈良女高師/大阪女子 高等医学専門校)		
12	1961 村田鈴子(研)	(奈良女/京都大)		竜谷大
13	1961 北川和佐子(医)	(奈良県立医大医学)		
14	1961 二口京子(木)	(奈良女 理数学)		
15	1962 鷲尾倭文(研)	跡見学園短大 教授 (奈良女高師/大阪女子 高等医学専門校)		
16	1962 真蔽子(研)	奈良女 理 助手 (奈良女 理)		
17	1962 三浦捷子(学)	(奈良女 家政食物)		
18	1963 岡本やす子(学)	(奈良女 文英語英文)		
19	1965 辻井康子(研)	奈良女 家政 講師 (奈良女 家政)		奈良女 家政 教授 (故人)
20	1965 吉田春美(学)	(奈良女 理化学)		元 京大 工 助教授
21	1966 堀川蘭子(学)	(奈良女 家政)		元 奈良女 家政 教授
22	1966 杉原三枝子(学)	(奈良女 家政被服)		
23	1967 藤田玲子(研)	奈良女 理数 助教授	解析集合の接続について	元 奈良女 理数 教授
24	1967 江崎幸子(研)	静岡女子大 助教授 (奈良女 家政食物)		

年度	氏名	受賞時勤務先（出身校）	受賞研究題目	職歴	
25	1967	橋本慶子（研）	奈良女 家政 講師 （奈良女 家政食）	肝臓ミクロゾームの ATPaseについて	元 奈良女 家政 食 教授
26	1967	中島美智子（学）	（奈良女 理生物）		
27	1967	猪俣雅子（ホ）	（奈良女 家政食）	食品のえぐ味について	
28	1968	菅沼美子（研）	奈良佐保短大 助教授 （奈良女 理生物）		元 奈良佐保短大 教授
29	1968	芦原千代子（学）	（奈良女 文地理）		
30	1969	疋田洋子（研）	奈良女 家政住居 助手 （奈良女 家政）	木材の表面処理に対す る高分子物質の適用	元 奈良女 家政 住居 教授
31	1969	鈴川良（学）	（奈良女 理物理）	衝撃波について	宣教師
32	1971	佐藤愛子（研）	奈良女 文 助手 （奈良女／京都大）		
33	1971	野口孝子（学）	（奈良女 家政住環境）		
34	1973	植西純子（学）	（奈良女 文教育）		
35	1974	汐崎恵子（学）	（奈良女 理数）		
36	1975	玉置陽子（ホ）	（奈良女 家政被服）		
37	1975	河合佐知（社）	（奈良女 家政住居）		
38	1977	関川千尋（研）	奈良女 家政生活経営 助手（奈良女 家政）	家計費における住居費 の分析的研究	元 京都教育大 教授
39	1977	奥村三和子（院）	奈良女 文研究科英		英知大
40	1978	中川早苗（研）	奈良女 家政被服 助手 （奈良女 家政）	現代社会の服装におけ る流行の構造	元 奈良女 家政被服 教授
41	1978	吉田実和子（院）	奈良女 理研究科生物		
42	1978	志熊玲子（社）	（奈良女 文教育）	障害に対する研究	
43	1979	平井タカネ（研）	奈良女 文 講師 （奈良女 文研究科体育）	音のリズム刺激の脳波 筋電図学的研究	元 奈良女 文 教授
44	1979	菊池由岐子（学）	（奈良女 家政生活経営）		
45	1980	久留島涼子（研）	奈良女 理化学 助手 （奈良女 理化学）	D-グルコサミン酸脱 水酵素の研究	元 奈良女 理 助教授
46	1980	丸山知子（学）	（奈良女 文教育）		
47	1981	関智美（研）	奈良佐保短講師 （奈良女 文研究科体育）	動作の再現能力に関す る研究	奈良佐保短大 教授
48	1981	竹内孝江（院）	奈良女 理化学修士		奈良女 理化学 準教授
49	1982	阿部百合子（研）	奈良女 理 助手（奈良女 理研究科 化学 修士）	溶液内における金属錯 体の化学反応に関する 研究	元 奈良女 理 準教授
50	1983	佐伯由香里（院）	（奈良女 家政研究科食物）		

年度	氏名	受賞時勤務先（出身校）	受賞研究題目	職歴	
51	1984	佐田優子（研）	奈良佐保短大 講師 （奈良女文研究科 教育学修士）	子供の芸術的認識に関する教育人間学的研究	
52	1984	井上朋子（ホ）	奈良女 人間文化研究科 比較文化学博士		
53	1986	首藤百合子（学）	（奈良大 文地理）		
54	1988	口羽真理子（院）	奈良女 人間文科研究科 生活環境		
55	1988	清水ひかる（学）	（奈良大 文文化財）		
56	1989	小林仁美（院）	奈良女 人間文化研究科 比較文化学		
57	1990	井上真理（院）	奈良女 人間文科研究科 生活環境		神戸大学
58	1991	碓香文（ホ）	奈良女 文学研究科国文		
59	1991	山本敦子（社）	（奈良大 社会学産業社会）		
60	1992	伊達桃子（院）	奈良女 人間文化研究科 比較文化学		
61	1993	濱本知寿香（院）	奈良女 人間文科研究科 生活環境		
62	1995	谷口美貴（院）	奈良女 人間文科研究科 生活環境		
63	1995	前川加奈子（学）	（奈良大 文地理）		
64	1996	サカモトエリ ベツユカリ （社）	奈良女 理物理 修士原子 物理学		
65	1998	松田真実（院）	奈良女 人間文化研究科 生活（奈良女 生活環境）	二次元非圧縮性粘性流体の方程式の解の分岐構造に関する研究	
66	1999	板谷聡子（ホ）	奈良女 人間文化複合領域 科学（奈良女）	免疫系の力学系モデル	
67	2001	坂口由佳（院）	奈良女 人間文化研究科 比較文化（奈良女）	「古事記」の作品論的研究－生と死の側面から－	
68	2001	中柴陽子（社）	奈良女 人間文化研究科 生活環境（奈良女）	食生活を通して健やかな長寿を目指す	
69	2003	村松加奈子（守）	奈良女 共生科学センター 助教授	衛星データの画像処理と自然変動の研究	奈良女 共生科学センター 準教授
70	2003	加藤芽里	奈良女 人間文化研究科 環境（奈良女 理化学）		KK東芝
71	2005	肥山詠美子（守）	奈良女 理物理 助教授 （九州大 理物理博士）	少数粒子系普遍的計算法の確立とストレンジネス核物理への応用	理化学研究所

年度	氏名	受賞時勤務先（出身校）	受賞研究題目	職歴	
72	2007	松本清（院）	奈良女 人間文化研究科 社会生活環境学 （お茶の水女子大）	教育現場に適用可能な バイオフィードバック 方略ならびにシステム の開発	
73	2007	石嶺舞美（社）	奈良大 文地理 （那覇国際高校）		
74	2008	中野由美子（院）	奈良女 人間文化研究科 博士（武庫川女子大）	これから望まれる複合 材料を目指して	武庫川女子大 助教
75	2009	井上洋子（院）	奈良女 人間文化研究科 博士複合現象科学 （奈良女 理物理）	低速多価イオン衝突に おける運動量移行及び 分子解離ダイナミクス	



若草山焼き行事の起源には諸説ありますが、三社寺（春日大社・興福寺・東大寺）の説によれば、若草山頂にある前方後円墳（史跡：鶯塚古墳（注1））の霊魂を鎮める仙人（注2）の祭礼ともいべきものとのこと。このほかにも若草山を年内もしくは翌年の1月頃までに焼かなければ、翌年に何か不祥事件が起こると考えられていたことや若草山一帯をめぐる春日大社・興福寺と東大寺の領地争いがもとであるなどの説や、あるいは春の芽生えを良くするための原始的な野焼きの遺風を伝えたものであるという説もあるようです。現在は観光行事としてはもちろん、火災予防のための役割も果たしています。約33ヘクタールの全山に火がまわり、冬の夜空に山全体が浮かびあがるさまは 壮観です。

注1 日本で最も高い所に築造された前方後円墳で、全長103m、前方部幅50m、後円部径61mの規模をもち周辺には円墳、方墳などが3基ほど確認されています。

注2 そまびと きこり 木を切る職業

低速多価イオン衝突に関する研究

奈良女子大学
大学院人間文化研究科

井上 洋子



私は「低速多価イオン-分子衝突における分子解離-」というテーマで実験による研究を行っています。多価イオン衝突に関するデータは、天文学分野や核融合プラズマ分野などの研究に用いられています。その為、ここ30年の間、多価イオン衝突に関する研究は急速に発展しました。しかし、それらのほとんどは、高エネルギー領域における研究でした。そこで、我々は低エネルギー領域における多価イオン衝突に関するデータの充実を目的として、低速多価イオン衝突に関する研究を行っています。

低エネルギー領域において、多価イオンと分子が衝突すると電子の移動(電子移行)が生じます。この電子移行によって、運動量移行もしくは不安定になった分子の解離などが見られます。分子の解離において、低エネルギー領域における分子の解離ダイナミクスは、高エネルギー領域における分子の解離ダイナミクスとは全く異なり複雑である為に、明らかになっていない部分が多くを占めています。

そこで我々は、分子の解離において大きく影響を及ぼしているのは、電子移行により生じる運動量移行であると考え、衝突エネルギーが変化すると分子へ移行する運動量はどのように変化するか、という事に着目し実験及び理論計算を行いました。結果、衝突エネルギーが減少すると移行する運動量が増加するという事、また分極という効果の影響が大きいという事がわかりました。

現在は、この運動量移行の衝突エネルギー依存性の結果を元に、分子解離における低エネルギー領域特有の現象に関して研究を行っています。